

令和4年がスタートしました！

明けましておめでとうございます。年の初めに大事なことは、前の年をふり返り、新たな目標を立てることです。勉強、生活、友人関係それぞれについて考えましょう。そして、それらを実行するために何が大切か考え、新しい年をスタートしましょう！

一年後振り返った時に、達成することができていれば、それが皆さんの成長した証になります。皆さんにとって、前に進める一年となるよう、頑張ってください！

世の中は先が全く読めない状況になっています。この先、何が起きるのか、どんな社会になるのか誰も予想ができません。これを不安と考えるのか、無限の可能性と考えるのかで人生が大きく変わります。悔いのない一年になるように頑張らしましょう。



11月5日の漢検合格者です 左から5年の田積さん(7)、菅原くん(6)、6年の佐貫さん(5)、中1の國方さん(4)、中2の宮原君(6) 下左から中2の渡邊さん(3)、成田君(5)、中3の土井さん(準2)、趙君(4)です。()内は合格級



11月20日の中3生の道コンと学力テストの結果を踏まえての面談



12月23日から冬期講座スタートしました。10、11日は道コンです！



差し入れありがとうございました



本格的な冬になりました。インフルエンザにも注意しましょう。新型ウィルスの感染が広がっています。要注意ですね！

冬休みの明けから高校受験本番までの勉強

冬休みが明けてから高校受験本番までの、目安となる勉強時間は平日で1日5時間、休日で8時間程度です。最後の追い込みですから、学校がある平日でも、5時間程度の勉強時間は確保することです。いくつか注意しておきたい点があります。

1つ目は体調管理に気をつけることです。どれだけ頑張っても高い学力を身に付けたとしても、体調を崩してしまえば元も子もありません。体調を崩した状態で受験当日を迎えると実力を発揮できず、合否にも大きな影響を与えてしまいます。

風邪やインフルエンザにかからないように、外から帰ったら手洗い、うがいを心がけ、加湿器などを利用して部屋の湿度を一定に保つようにした方がいいですね。睡眠時間も大切です。

これまでに取り組んできた志望校の過去問や模擬試験を、何度も繰り返し解くことが大切です。間違えた箇所をチェックを付け、解説や参考書を読んで完璧に理解しましょう。また実際の試験時間を想定して、制限時間を決めて問題を解くことも時間配り

この教育法が、17年にスカイさんが「全米最優秀女子高生」に選ばれた要因だと語る。

非認知能力は、自己肯定感、自心、主体性、創造力、共感性、協働性、やり抜く力などの能力で、数値化は難しいが、自ら問題を発見して解決していくためには欠かせないものである。この非認知能力を育む教育法について具体的に解説しながら、家庭で保護者がすぐにできる子どもとの向き合い方を取り上げ、三つの柱を紹介。

一つ目は、安心・安全な環境。自己肯定感と言い換えられる。最も重要なのは、その子がその子であること。その子がそこにいるからこそ価値がある。

二つ目は主体性。人間にできてAIにできないことは、自らスイッチを入れること。そのためにはロールモデルの存在が大切。親や先生が、最高に楽しく生きている姿を見せることだ。

三つ目は、外に向かって行動すること。自分がどう社会とつながっていくのか。将来、どんな職業に就きたいかではなくどんな大人になりたいかである。

全米最優秀女子高生の母親にきく！

「世界最高の子育て - 「全米最優秀女子高生」を育てた教育法」『非認知能力』の育て方』などの著書により「非認知能力」を育むバイオニアとして活躍中のボーク重子氏 (Shigeko Bork BYBS Coaching LLC 代表 ICF 会員 ライフコーチ) がアメリカから講演を行った。

ボーク重子氏が非認知能力を育む教育を始めたのは、娘のスカイさんが生まれたときに、自ら人生を切り拓ける主体性のある人になってほしいと願い、その能力を育む教育法に出会うことができたからだとい



Shigeko Bork BYBS Coaching LLC 代表 ICF 会員 ライフコーチ ボーク重子氏

分の練習にもなりません。

最後は苦手科目や苦手な単元に集中して取り組むことです。入試まで57日ほどです。得意な科目や得意な単元に時間をかけるよりも、苦手な科目や苦手な単元に力を入れて勉強することです。

英語や数学は積み重ねの科目のため、短期間で克服するのは難しいかもしれません。でも、大事なのは基本をしっかり押さえる事です。そのためには英語や数学の公式などを覚えるだけでも得点アップにつながるはず。また理科や社会も基本的な重要事項はしっかり覚えましょう。受験まで57日あります。志望校に向けて、やればやるほど得点はアップします。ネバーギブアップですよ！

31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土
	直前ゼミ(5) 休塾	直前ゼミ(4)					直前ゼミ(3) 休塾	直前ゼミ(2)			★釧路市立高等看護入試				★大学入試共通テスト	◆通常授業スタート◆	◆冬期講座最終日	◆冬期講座			●中3年生道コン	●中1・2年生道コン							1 年末年始休み	
	公立高校入試まであと57日							共通テストまであと10日																						
	携帯・スマホ持ち込み禁止！																マスク、手洗い、消毒を！													
	ストップ 過保護・過干渉！																1月の予定													

在籍する生徒の所属校
小学校 昭和・愛国・遠矢
中学校 美原・景雲・鳥取・鳥取西・附属・富原・遠矢
高校 湖陵・江南・北陽・東・工業・高専

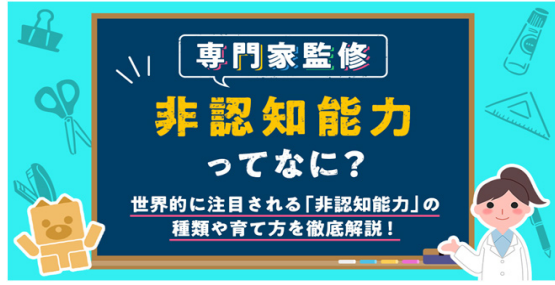
新しい時代、記事にもあるように、社会は大きく変わり、学力以上に重要とされる「非認知能力」が要求されます。

簡単に言うと学力が高くて通用しないということです。ねばり強く頑張る力、客観的思考力、判断力、行動力、リーダーシップ、協調性、思いやりなどあらゆる事が要求されます。

みなさんはどうでしょうか？見ていると元気がなく、挨拶もきちんとできない、時間や決められた事を守れない人が多く見受けられます。もう、何とかなるというような時代ではありません。自分の将来、未来に向けて何事にも全力で向かって行く必要があります。

新しい年の初めに、自分がどうしたいのかをあらためて考えてみて下さい。時間は止まらないんです。

非認知能力とは？幼児期から学童期に育てたい「人生を豊かにする力」



「非認知能力」という言葉をご存知でしょうか。これは「学力テストなどでは数値化されない、子どもの将来や人生を豊かにする力」のことで、近年教育分野において特に注目を集めています。非認知能力は生涯にわたって役立つ力ですが、これを育てるには、幼児期から学童期にかけての取り組みが重要だと言われています。今回は、今からぜひ育てたい「非認知能力」について詳しくご紹介します。非認知能力とは

「認知能力」と「非認知能力」の定義

人間の能力は、大きく「認知能力」と「非認知能力」の2種類に分けられます。「認知能力」とは、IQ（知能指数）に代表されるような、点数などで数値化できる知的能力のことです。IQという言葉は一般的にもよく知られており、大人が子どもの能力を把握する上で参考にしやすい指標のひとつです。

一方「非認知能力」とは、認知能力以外の能力を広く示す言葉で、テストなどで数値化することが難しい内面的なスキルを指します。具体的には「目標を決めて取り組む」「意欲を見せる」「新しい発想をする」「周りの人と円滑なコミュニケーションをとる」といった力のことで、子どもが人生を豊かにする上でとても大切な能力であると言えます。

非認知能力の種類

テストで数値化されにくい能力は幅広く「非認知能力」と位置づけられるため、具体的にイメージしづらいかもしれません。研究者によってさまざまに定義づけられるケースもありますが、その一例をご紹介します。

非認知能力の名前	具体的な能力
自己認識	やり抜く力、自分を信じる力、自己肯定感
意欲	学習志向性、やる気、集中力
忍耐力	ねばり強く頑張る力
セルフコントロール	自制心、理性、精神力
メタ認知	客観的思考力、判断力、行動力
社会的能力	リーダーシップ、協調性、思いやり
対応力	応用力、楽観性、失敗から学ぶ力
クリエイティビティ	創造力、工夫をする力

こうして見ると、「非認知能力」という言葉にはあまり馴染みがなくても、その中身は子育ての中で一度は目にしたことがあるものばかりだと気付きます。「ぜひ我が子に育ててほしい！」と願うようなものも多いのではないのでしょうか。

非認知能力が世界的に注目される背景

紐解いてみると意外と身近なことが分かる「非認知能力」ですが、この能力は今、世界的にも大変注目されています。

そのきっかけは、1960年代にアメリカで行われた「ペリー就学前プロジェクト」。これは経済的に恵まれない3歳～4歳のアフリカ系アメリカ人の子どもたちを対象に行われた教育プログラムに関する研究です。子どもたちはランダムにこのプログラムを受けるグループと受けないグループに分けられ、プログラムを受けたグループの子どもたちには、午前中は「子どもたちが主体となる学び方（アクティブ・ラーニング）」による学校教育が施されたほか、週1回先生が家庭訪問をして家庭での親子の関わり方についての指導にあたりました。その後40年にわたる追跡調査で、この「ペリー就学前プロジェクト」を受けたグループの子どもたちは、この教育を受けていないグループの子どもたちと比較して認知能力には大きな差がないものの、学習成績が高く、より安定した社会生活を送り、犯罪率や生活保護受給率もより低いということが分かったのです(*3,*4)。

この結果を受けて、両者の差を生み出したのは、「認知能力以外の力」なのではないかと考えられるようになりました。それはすなわち、テスト等でははかることのできない「非認知能力」であり、その能力こそが社会への対応力につながって、子どもたちの人生をより豊かにしたと言えるでしょう。

今子どもたちが生きる社会は、国際化やボーダレス化が進み、ますます変化に富み多様化しています。この時代を生き抜く上で、今改めてこの「非認知能力」が注目されているのです。

非認知能力の育て方

非認知能力は幼児期から学童期に育ちやすい

非認知能力は生涯にわたって役立つ能力であり、何歳からでも鍛えることが可能ですが、幼児期から学童期にかけて取り組むことが特におすすめです。その理由

は2つあります。

まず1つは、幼児期から学童期にかけて、子どもが非認知能力を伸ばせるようなアクティビティを取り入れやすいこと。非認知能力を育てるには、日々の生活や遊びの中で楽しみながら伸ばすのが最適だと言われています。幼稚園や小学校などでの活動の中で、また家庭での家族の関わり合いの中で、さまざまな活動を取り入れると良いでしょう。

もう1つは、幼児期から学童期にかけての子どもは、新しいことに挑戦する力や、そこから多くのことを吸収する力が特に高いこと。さまざまな非認知能力を育みながら、さらなる学びにもつなげやすく、多くの力をバランス良く伸ばしていくことができるでしょう。

非認知能力を育てるポイント

非認知能力を育てる上で大切なのは、日常生活の中で無理なく楽しく取り入れるということ。ここでは、非認知能力を育てるポイントを具体的にご紹介します。

●「遊び」を通して育む

子どもの非認知能力を育むには、さまざまな「遊び」を取り入れることがおすすめです。ここで大切なのは、遊びの中で子どもが「自分で考える力」を発揮できるように意識することです。

例えば、空き箱やプラスチックカップ、包装紙、落ち葉や木の実といった身近な素材を使う工作遊びでは、子どもが「何を使おうかな」「どんなものを作ろうかな」と試行錯誤する過程で、想像力や創造力、工夫する力、最後までやりぬく力などの非認知能力を育むことができます。幼児期には手で触った感触や色などを中心に楽しんでいたものが、小学生になるとより複雑な仕組みを考えて工夫するようになるなど、年代に合わせた成長も見られるかもしれません。

幼児期の子どもが大好きな「ごっこ遊び」も、非認知能力を育む遊びとしておすすめです。さまざまな役を想定してなりきる想像力や表現力、友達と役割を調整する上での交渉力や柔軟性、お互いに関わり合いながらの協調性やリーダーシップなども身につけることができます。ごっこ遊びの中に買い物の要素を取り入れれば、お金の概念を理解したり、自分で計算したりするなど、認知能力を伸ばすことにもつながるでしょう。

●好きなことを通して育む

子どもがさまざまな遊びをする時には、「子どもが好きなことをする」という視点も大切です。大人が「遊びを通して非認知能力を伸ばそう」と意識しすぎると、遊びの方向性を必要以上に誘導することにもつながってしまうため、意外と注意が必要なのです。

子どもの興味が次々と新しいものに移る時は、気持ちの向くままに好きなことをさせてあげましょう。「目移りしないで、ひとつのことに集中してほしい」と感じることもあるかもしれませんが、もしかするとその遊びの中で、想像力や創造力など“何か別の力”が育まれているかもしれません。非認知能力とは、実に多岐にわたるもの。子どもの意思を尊重し、自由に取り組ませてあげながら、さまざまな力が自然と育まれていくものです。

●周囲との関わりの中で育む

認知能力と非認知能力の大きな違いのひとつに、「周囲との関わり」という視点があります。認知能力は、計算や漢字の書き取りを繰り返し練習したり、歴史や単語などをしっかり暗記したりという側面も大きいものですが、非認知能力はこれと大きく異なります。

自分で工夫して作った作品をお友達と見せ合ったり、他の子のアイデアがステキだと思ったら自分も取り入れてみたり、協力し合って大きなものを作り上げたり。意見がぶつかった時には交渉や調整を試みたり、失敗したときにはそれを取り返す工夫をしたりと、「他者との関わり」の中で学ぶものが実に多くあるのです。

幼児期や学童期は、たくさんのお友達と幅広く触れ合う機会が多いほか、家族で過ごす時間も長いもの。楽しい時間を共有する中で、自然と非認知能力を鍛え、子どもの将来につながるような豊かな力を育んでいけるといいですね。

坂野 真理 子どものこころ専門医。

日本医科大学卒業後、東京大学医学部附属病院小児科、医療福祉センター倉吉病院精神科などを経て、英国キングスカレッジロンドンの精神医学・心理学・神経科学研究所にて修士号を取得。

2018年より「虹の森クリニック」院長を務め、2020年には英国に「虹の森センターロンドン」を開設。

資格：精神保健指定医、日本精神神経学会専門医・指導医、日本児童青年精神医学会認定医、子どものこころ専門医、日本医師会認定産業医

